

## 第1回 総合振興計画審議会【概要】

### ◇開催日時及び場所

日時：平成28年7月13日 午後6時より

場所：湯沢市役所2階 25・26会議室

### ◇出席者（敬称略）

#### （委員）

高嶋 伸夫（ゆざわ小町商工会）、井上 善蔵（こまち農業協同組合）、佐藤 政弘（湯沢市雄勝郡医師会）、中山 孝子（湯沢市社会福祉協議会）、前田 貞一（湯沢市体育協会）、柴田 武彦（湯沢地区自治協議会）、高山 重雄（湯沢7地区自治連絡協議会）、戸部 緑（雄勝野づくり連絡協議会）、寺門 敏子（NPOサポートセンター ビーイング）、築瀬 栄美子（（合）トマトクリエイション）、竹下 有紀子（クラウドワーカー）

#### （欠席）

松田悦子（湯沢商工会議所）、伊藤明美（湯沢市観光物産協会）、住谷達（湯沢青年会議所）、沓澤重美（稲川地域自治連絡協議会）、佐藤久代（皆瀬地域自治組織地域づくり委員会）

#### 1. 開会

#### 2. 任命書交付（藤井副市長より交付）

#### 3. 市長あいさつ（副市長代理）

#### 4. 審議会委員紹介

#### 5. 会長の互選及び会長代理の指名

審議会要綱第5条第1項の規定により、ゆざわ小町商工会の高嶋委員が会長に決定しました。

審議会要綱第5条第3項の規定により、会長代理に湯沢青年会議所の住谷委員が指名されました。（住谷委員は欠席されていたため、後日了承を得ることとしました。）

#### 6. 会長あいさつ

#### 7. 説明事項

事務局より、（1）湯沢市総合振興計画審議会について、（2）湯沢市総合振興計画策定委員会について、（3）第2次総合振興計画策定に関する基本方針について、資料に基づき説明、内容の質疑を行いました。

主な内容は次のとおりです。

〈発言等〉

(委員)

これまでの10年間は土台づくりの期間という文言があるが、市としては土台がどのくらい固まったと判断しているか。

(事務局)

合併時に定めた新市建設計画に基づき、市の施策を展開してきています。建設計画に定めました各地域の主要事業については、ハード面の主なものは大よそ完成、ソフト面については地域自治組織などの体制づくりはほぼできたとしております。

合併時からの10年間で基礎的な部分は概ね整ったということで、今後の10年は育てあげる期間として捉えています。

(会長)

ほかに質問はないようですので、説明の3件については了承ということでよろしいでしょうか。

(一同) 異議なし

次に協議事項について事務局より説明、質疑を行いました。

○スケジュール(案)について … 特に意見なし

○基本構想(骨子)について

(会長)

今日は大まかな方向性で具体的なことは次回以降となるが、人口減少にあることを前提として、どうやったらまちを維持していけるのか、それぞれの立場から意見をいただきたい。

(委員)

農業については、高齢化が進み、耕地を荒らさずに維持することが困難となっている。若者が定住するための働く場所として、農業だけでは厳しいのが現状。

担い手への集約も進めているが、合理性だけでなく小さい農家でもやって行けるよう、企業誘致などを積極的に行い、農業と一緒に働いて暮らしていける状況が必要である。みんながいきいきと暮らせる地域づくりのためには若い人が必要なので、雇用の場の確保が重要と考える。

(会長)

農業に若い人がもっと参画できるよう、どのような手だてがあればと考えますか。

(委員)

農業に魅力がない訳ではなく、三関のセリやさくらんぼには後継者が育っている。しかし、田を中心にやってきたところは経営として成り立っていないので、大規模化することになる。結果として人もいらなくなっている。

(委員)

少子高齢化についても長くやっているが、地域の労働力や隣近所や血縁で助け合ってきた関係が弱くなっている。これからの福祉は、地域住民みんなが、できることを今よりも一歩出て動いていかなければいけないと考えている。

(会長)

案にあるように、共創とか共助が重要になってくると思うが、どうしたらそうしたことが生まれてくるか、考えはありますか。

(委員)

家を守る人がいなくなり空き家が増え、今までやってきた集落の維持や催しなどもできなくなっている現実がある。今まで以上に隣近所で助けあうことが理想だが、人が居ないことには難しい。暮らしを守っていくためにそれぞれ考えて、いい方向に持って行ければという希望です。

(委員)

人口ビジョンの資料で2040年以降は老年人口も減って高齢化率も逡減してくるとあるが、この先のデータもどう変わるのか示してもらいたい。この段階では生産年齢人口と老年人口が300人位しか変わらないが、老年人口については一言も触れられていない。若年人口と生産年齢人口の層を引き上げることは大事だとは思いますが、半数に等しい老年人口について触れないのはおかしく、どういったまちづくりを目指すのかという点で考慮していった方がよいのではないかと。

(委員)

基本構想とか基本計画とかあるが、具体的に何をどうするかが課題。今までどのようなことをやってきたのか具体例を載せてもらえれば、よりイメージが具体化してくる。基本構想と言っても、具体的なところが分からない状況では、どの

ような文言にすればいいのか見えてこない。

(委員)

子どもを育てるにはお金が掛かるが、いまの収入で何人育てられるか。賃金を上げればいいのかいっても、企業も儲かっていないという繰り返し。どうすればいいのかの答えは出ているが、議論だけしている気がする。

地方創生アンケートの若者の考える課題に、希望する仕事が見つからないとあるが、昔は地元に残りたいからどんな仕事でも就いたが、今はデスクワークだけを望む人が増えている気がする。農業後継者がいないという話や、建設業でも人が足りなくてもやる人がいない等、学歴社会になってしまっているために希望する仕事が偏ってしまって、地元に戻らなくなっている。

今の子どもは危ないから行ってはいけないとか、学校から自転車で行ける範囲が制限されるなど、過保護になり過ぎている。地元のことや地元の良さを覚える機会がない。

湯沢の魅力を若者が発信するにしても、小さい時から見ていないので分からないのではないか。単純に少子高齢化だけ考えても解決にならないと思う。

(会長)

子どもの教育、地域の自然や歴史、文化、お祭りを知るとか、そういったことが若い人たちに定着してもらおうきっかけになると思うので、これから協議に活かしていきたい。

(委員)

子育てや稼ぐ力ということが重要と思う。子育て中の母親の中で聞くのは、子どもをもっと欲しいが金銭的に難しい、働ける環境がない、働いても保育料で消えてしまうとか、経済的なことが大きい。

働ける環境と、核家族も多いため地域で子どもを見てくれる環境ができればいいと思う。

(会長)

若い人の考えていること、意見を聞いていくことが必要と思うので、これからもいろいろと意見を出していただきたい。

(委員)

障がいのある方の地域支援をしているが、若い人にバトンを渡したい、若い人たちの力を借りたいということをいつも考えている。

しかし、若い人といっても、60歳前の方がボランティア活動できるような世の中ではなく、70歳までは若い人という意識でいる。

自治組織でも何の会でも事務局をできる人がいなくなってきており、課題となっているが、できることを頑張ってみせていくことが大事。

(委員)

郷土を愛する子どもたちを育てることで、いずれ郷土に魅力を持って帰ってきてくれるのかと考えている。小中学生がもっと郷土に触れられる場があればいいが、そのためには学校の協力がなければいけない。

地域には「おしら様の桜」という地元の人よりも他県から多く見に来てくれる桜がある。子どもたちにも知ってもらいたいと思い学校に協力をお願いしたところ、今年は2・3年生が来て作文を書いてくれ、「こんなものがあると思わなかった」「感動した」という感想が多かった。地域の魅力は色々な所に潜んでいるので、もっと魅力的な湯沢市であることを知らせつつ、雇用の問題など課題を解決できればいいと思う。

雄勝高校の子どもたちも手伝いに来てくれるが、将来帰ってきたいけど職がないと悲観している。職を求められる地域でありたいと思う。

(委員)

単純な少子高齢化ですまされないという発言に共感している。

また、70代でもまだまだ頑張るしかないということがあったが、まずは健康でなければいけない。そのために、単なる競技スポーツではなく、生涯スポーツの観点からのまちづくりが必要ではないか、そうすることで、若い人から高齢者まで健康で過ごせ、病気や介護から市民を救うのではないかと考えている。

同じく、学歴社会を見直し、郷土に目を向けてもらう教育、ふるさとを担う人を育てるような教育をしていかなければいけない。

ボランティア団体の事務局の話もあったが、体育協会でも以前は市で事務局をやっていたが、今はパートでなかなか見届けできず、協会もスポ少も運営できない状況がある。公的団体の育成、補完という点について、市でも見直していただきたい。

基本理念のイメージで、現行にある市民と行政の協働という言葉が消えているが、市の職員も減ってくる中で、協働という考えとシステムを残していかないと行政需要を賄っていけなくなると思う。

市役所も新しくなったが、旧庁舎の時のの方が団体に関する相談にも行きやすかった。現在はカウンター形式のせいか担当者とだけで、上の人との話もしにくくなってしまった。行政と市民との協働という意味で、もっと開かれた市役所であ

るべきと考える。

また、公共交通の協議会では提案の説明ばかりで意見を出しにくいような状況も感じたので、もっと委員に意見を出してもらえるような会議にしてもらいたい。

(委員)

基本理念といったものは、総論なので大体いいのではないかと考えている。

資料の財政見通しなどを見ていて、これだけ収入が減るのではやっていけないのではないか。除雪はできなくなる、火事になっても消防車が来ない、救急車も来ない、警察も来なくて治安が悪くなる。そういったことは避けなければいけないが、この収入を見ると消滅可能性都市というのも、嘘ではないと感じる。

考え方だが、都会のゴミゴミして居住空間の狭いところから、自然が豊かで広いなどの価値観に転換してくるのではないか、また、首都直下型地震などが心配される中で、相対的に地方の地位が上がる地方の時代が来るのではないかと考えている。

今でこそ、地方の活性化、地方創生とか言っているが、これまで国で一極集中の施策を取ってきたからであり、一極集中を解消させる大胆な転換が無ければいけない。いずれ、コンパクトシティにして行政コストを抑えないと持たないだろう。

(会長)

様々な意見を出してもらいましたが、方向性のある意見もありましたので、事務局にはこれからの参考にしていただきたい。

<議事終了>

<その他>

- ・会議の開催時間について各委員の意見を伺った結果、次回も夕方からの開催とすることを了承を得た。
- ・次回は、8月4日（木）午後6時の開催予定で了承。
- ・議事録については要点記録とし、委員の皆様にご確認いただいた後、市のホームページで公表することを了承。